

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470501418
法人名	(有)すずらん
事業所名	グループホーム 潮風
所在地 (電話番号)	津市阿漕町津興214番地2 (電話) 059-246-8800
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 10 月 15 日(月)

## 【情報提供票より】 (H19年9月27日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5人, 非常勤 6人, 常勤換算 7.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 55,000 円 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

### (4) 利用者の概要( 9 月 27 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2		2 名	
要介護3	1 名	要介護4		4 名	
要介護5	1 名	要支援2		1 名	
年齢	平均 86.66 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	はぎの医院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海岸に近いのどかな住宅街にあり、平屋建ての一軒家で、周囲の住宅に溶け込み違和感がない。周囲には畑もあり自然に恵まれている。管理者が長年この地域の住民だったことから馴染みの人が多く、人脈を活かした地域との交流が盛んに行われている。地域にも自然に受け入れられ日常のお付き合いができています。事業所では一人ひとりがかけがえのないオンリーワンの精神で、その人がその人らしく暮らせるよう工夫し、一人ひとりに寄り添い、共生できるアットホームな事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 介護計画の利用者、家族の意見反映、個別の栄養摂取状況の把握、緊急時の手当て、市町村事業の受託、周辺施設等の理解、協力への働きかけについては全て改善されている。鍵については意見の相違があり、防犯対策上必要の考えがある。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	②	<p>管理開始スタッフ全員で取り組んでいる。評価項目一つずつ検討することで日常生活全般の振り返りができ、良い所、新たな取り組みの必要なところが認識できステップアップの機会にしている。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) グループホーム潮風の活動方針について、地域に開かれた事業運営のあり方、災害時の対応について討議されている。地域代表から施設を知ることで一体感が感じられ良かったとか、家族からも潮風の様子がわかり良かった等理解が得られ、これを機に地域との交流が盛んに行われ地域住民として協力体制も確立している。</p>
	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議での発言、面会時の意見、要望の受け入れ、家族会で出される意見等を受け止め運営に反映している。又、定期的にあるいは随時、機会あるごとに利用者の生活状況、身体状況を報告し、安心して頂けるよう努めている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会、民生委員、子供会、保育園、病院、介護施設等と連携し、地域住民として安心して生活できるよう取り組んでいる。特に子供会、保育園との交流が盛んではほほえましい。管理者の人脈を活かし、地域の社会資源を活用したり、関係作りに取り組んでいる。</p>

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者もスタッフもかけがえのないオンリーワンの精神で一人ひとりの尊厳保持と一人ひとりの生き方に寄り添った関わりを理念としている。	○	「年を取れば我等の地域には潮風があるじゃないか」と思ってもらえるようにとの考えがあるので、地域密着型の表現を加えられたらと思われる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の要所要所に理念が掲示されている。スタッフもオンリーワンをモットーに一人ひとりに合った生活の場作り、家庭の雰囲気作りに努め、一人ひとりの気持ちに寄り添うことに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、民生委員、子供会、保育園、病院、介護施設等と連携し、お互い行き来し、理解を深めている。特に保育園、子供会との交流が深い。管理者が長年地域住民だったことから馴染みの人が多く、人脈を活かし自然と交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	「見直しの機会」と捉えている。外部評価の結果も踏まえスタッフ会議で討議し、改善すべきは改善し、良い所は継続したり取り入れるよう努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、自治会長、民生委員、市職員、事業所職員等で構成され、地域に開かれた事業運営のあり方、利用者やサービスの状況、評価報告、事業所への要望、助言を頂いたり、情報交換しサービス向上に活かしている。	○	全メンバーが集合して2ヶ月に1回行うのは困難だが、頻回に必要なメンバーで話し合いの場を持っているので、そのような機会を運営推進会議の一環として捉えてはと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の相談、助言を受けたり、潮風のある地域をどのようにしていくか等話し合っている。また老人介護について認知症介護について講師になる等市との連携を深め、地域に密着したサービス向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理は立替方式で月締めで精算している。面会来所時に精算していただくため、そこで報告の機会にしている。また、近所の利用者家族が多いため、頻回に面会があり随時報告したり、月1回の潮風だよりの送付等により、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の対話から意見が引き出せるよう努めている。アンケート調査や同意を得る事項の説明時に出た意見、家族会での会議、食事会等、交流を図りながら出された意見等運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの異動はないが担当制を取っているため、利用者スタッフの相性を重視している。スタッフを含めた家族環境を重視して利用者が混乱なく穏やかに過ごせるよう職員配置に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招いたり、施設長からの研修、伝達講習、経験を活かしスタッフが講師になる研修、共有ノートの活用等レベルアップに努めている。内部研修が主体になっているので外部研修への参加の機会を増やしたいと考えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ協議会、グループホーム連絡協議会、介護福祉士会、認知症家族の会等に所属し、交流を図っている。また近隣の同業者と合同で夏祭りをしたり、音楽会に参加する等、スタッフのみならず利用者も他施設を訪問する等相互向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	さりげなく家庭訪問からはじめ、馴染みの近所人となるよう複数回訪問する。その上で「家(グループホーム)にも遊びに来てください」感覚で家族と共に見学、体験の機会を数回作り、相手を体感していただいた上で入居へと方向づけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職場というより自分の家庭の延長線上にあるように家族同様に過ごしている。スタッフの年代も様々で家族構成としてバランスがとれている。先輩の人から見習うことが多くあるので知恵を頂き、共に必要とされる人間として支えあっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から生活歴、利用者の生き方、暮らし方等情報を得ているので本人にとって最適な方法を検討している。また日頃の表情や行動からニーズを察知したり、情報共有ノートにより利用者の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者を中心に情報収集を行うが、他のスタッフも気づきがあった時、共有ノートに記し、課題分析への材料としている。また面会時の家族の意見も取り入れ、ケア会議で検討し、より良く暮らすための介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しや、心身に変化が見られたとき等は随時見直しをしている。情報共有ノートの記載事項が見直しのチャンスになることが多く、現状に即した計画立案に努めている。	○	定期的に又は随時見直しされているので、モニタリングの用紙に日付のみでなく見直した内容も記録に残されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自主サービスとしてかかりつけの理美容院利用介助、受診介助(歯科・眼科・耳鼻科等)、「家に荷物取りに行きたい」等、個々のニーズに合わせて満足していただけるよう支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により従来のかかりつけ医を継続したり、嘱託医に変更になることもあるが、多くは嘱託医が主治医である。随週の定期往診や随時の相談、往診も24時間対応可能で安心できる医療体制が組まれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日頃からターミナルケアに関する家族の意向調査をし方が一に備えている。スタッフも共有している。また主治医にもあらかじめ伝えられており、方が一に備え対応策を講じている。医師、管理者、スタッフ、家族の協力のもと、お一人看取りの経験がある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライド、プライバシーを尊重した対応に心がけている。特に言葉遣いで幼児語は禁止。周辺症状だけ見ず、その人を見ること、相手は自分の鏡として自分の対応を振り返ることができるよう、心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分、希望、身体状況を見ながら「いい天気やなあ、外へ行きたいなあ」「草取りしたいな」「コーヒー飲みに行こう」「買い物に行きたい」等、その人のペースに合った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全面的に準備、片付けに利用者が参加することは困難であるが、テーブルを拭いたり食器を片付ける等、できる範囲で参加協働している。スタッフも対話しながら食事を共にしなごやかである。時にはリクエストを取り、希望にそった食事を提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴タイムは午後が日課になっており、利用者も馴染んでいる。入る順番とかは好みや希望があり、それに合わせている。基本的には随日入浴だが、ほとんど毎日入っている。また排泄汚染があったとき等は随時シャワー浴をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物の取り入れ、たたむ、テーブル拭き、大正琴の演奏、カラオケ等、得意なことを自信持ってやれるよう支援したり、「必要とされていること」を感じていただけるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には、朝、昼、晩が感じられるように外気浴や散歩をしている。洗濯干し、取り入れ、草取り等自由に出入りされている。買い物、イベントへの参加、家族との外食、外泊等希望にそって支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一般家庭でもそうであるように防犯の意味で玄関はオートロック化されている。見守りが充分できるようスタッフ3名プラス管理者の4人体制(夜間は別)で対応し、行動規制なくすむようにしている。出たい様子が見られたときはすぐ付き添い、外出支援しており閉鎖的な生活の場にしないというポリシーがある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議でも議題に挙げられ、地域の方々と話し合いが持たれている。避難方法連絡体制等整備し食料備蓄もされている。また利用者の身体状況も報告され、救助支援、協力が得られるよう常に連携を図っている。	○	事業所内訓練に地域の方々の参加を呼びかけたり地域の訓練にスタッフが参加する等、利用者が混乱しない方法で実施を検討していただくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500キロカロリーを目安に栄養バランスに配慮した献立が作られている。嚥下や咀嚼に問題がある人は摂取しやすい形態で提供している。水分補給もマニュアル作成し必要量飲用できるよう対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋のため天井が吹き抜けで天窓があり、明るく圧迫感がない。一人用のソファ、横になれるソファがテレビの前に置かれくつろげる。食堂はシンプルで清潔感があり、窓の外に洗濯物が見え家庭的である。風呂場も明るい。トイレは共用で2箇所あり一人ずつ使用のためプライバシーが保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、仏壇、花瓶、小物等こだわりのあるものや馴染みの物等持ち込まれ、個性のある居室作りをされている。		